

平田建設 HVバックホー導入

従来機比 燃費40%低減

ゼロカーボンの取組推進

【帯広発】(株)平田建設(土曜) 長谷川雅毅社長はこ

のほど、ゼロカーボンに關する取組の一環としてハイブリッドバックホーを導入した。従来モデルと比較すると燃費を40%低減でき、二酸化炭素の排出抑制が期待されている。13日から帯広建設発注の橋梁下部工の現場において、橋脚周りの埋め戻しなどで活用し、ゼロカーボン実現を目指す。同社は昨年5月、ゼロカーボン北海道の実現に向けて「ゼロカーボン・チャレンジ」を宣言。14個の宣言項目から「テレワ

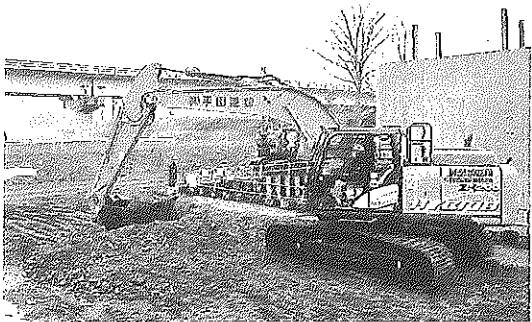


クやオンライン会議などICTの活用による事務所の省エネや通勤等交通に伴うCO2排出の抑制」など6

項目を選択しており、これまでも社用車9台をハイブリッド車に乗り換えたほか、現場事務所に太陽光パネルを設置するなど、積極的な取組を行っている。ハイブリッド 国交省の「低炭素型建設機械」の認定を受けた車両は静音性にも優れる。 バックホーの導入は、選択した6項目のうち「工場・事業場における省エネ型生産機械等の導入」の一環として行ったもの。これまでモリス車両を使用していたが「ゼロカーボンへの積極的な姿勢を示したい」との思いから購入に踏み切った。今回導入したのは、日立建機が開発した「Z日20016」モデル1台。新型ハイブリッドエンジンとリチウムイオンバッテリーを搭載したことによって、

ハイブリッドを強化するとともに、旋回減速時のエネルギー回収量向上を実現。従来の「ZX200-3」モデルと比較すると、PWモード時の燃費を40%低減できるなど、二酸化炭素排出抑制が期待されている。

13日から帯広建設発注「熊牛御影線十勝橋架換補正・明許ほか」の現場に導入し、橋脚周りの埋め戻し作業などで稼働。今後も活用していくとともに、これまでの各種取組の継続・拡充を進め、ゼロカーボン実現を目指すとしている。



静音性にも優れた建機が現場で活躍

### 燃費4割減、CO2排出抑制へ

平田建設(本社・土曜) 録。現場で使用するライトのLED化やハイブリッド型のバックホーを現場に導入した。パワーなどの性能は従来のバックホーと変わらず燃費を4割低減。現場の二酸化炭素(CO2)排出量抑制につながる。同社は昨年5月にゼロカーボンチャレンジに登録した。導入したのは日立建機の「Z日20016」で、従来機より燃費やバッテリー性能が向上したほか、独自システムで尿素水が不要なためランニングコストが低い。国土交通省の低炭素型建設機械に適合している。帯広建設発注の熊牛御影線十勝橋架け換え補正明許ほかの現場で、橋脚の埋め戻しに使用。周囲で稼働する建機に比べ、静音性に優れている点も特長だ。

### 平田建設

長谷川雅毅社長は「リースでも使えるが、環境対策に取り組み会社の姿勢として購入した」と話す。

## ハイブリッドバックホー導入

(帯広)

3/15 建設